

5. 現代における教養教育の在り方について

(1) 教養教育の原点としての市民教育の変容

① 「豊かな市民社会」へのパスポートの失効

90年代以降の社会における教養

進学率

グローバル化

大学で育てるべき市民の多様性

グローバルな場面で活躍するエリート

成熟した市民社会の担い手としての市民

② 成熟した市民の育成

賢慮ある人柄 (いかなる意味の市民にも必要)

公共的課題への取り組み

高度な知性

異質な他者との連帯・協働

知的好奇心 無駄の効用 教養のための教養

(2) 大学における教養教育

① 準備教育としての教養教育

レイトスペシャライゼーションも合体 (学士課程教育を教養教育とほぼ同一視する観点)

② 民主主義社会を担う市民教育；現代的レリバンスの観点から

<この項の内容は、すべて専門教育においても取り組まれるべき課題>

・公共性<専門分野にも公共性がある>

・広い知識

学際性／古典／現代社会の諸問題／文系と理系／学問の体系性

知的好奇心／専門知の相対化

・社交性

コミュニケーション能力／言語運用能力／隠れたカリキュラム

・情報技術

I T活用／知の検索／知の編集／知の発信

(3) 学士課程教育に求められる教育方法

教養教育に固有ではなく、専門教育も含む学士課程教育において取り組まれるべき課題

・teaching から learning への転換

- ・参加型学習：活動することによって学習する
ジェネリックスキル
- ・コミュニケーション教育
語るべき内容無しにコミュニケーションはありえない

- ・設備・制度の改革

（４）教養教育の観点からみた学士課程教育の評価基準

専門の内容について説明する能力

専門知の限界について語る能力

専門の公共的意義と限界について市民に語る能力